

過去の災害を知る



『日本災害史事典』日外アソシエーツ/編 日外アソシエーツ(2010)

●『日本災害史事典 1868-2009』(R210.6)【3F】

明治元年から平成21年までに日本で発生した災害4,557件を収録。死傷者数や被害規模がわかります。

●『愛知県災害誌』(A369.3)【3F】

古代から昭和44年までに愛知県で発生した地震、風水害等の災害について、被害状況や気象資料などを掲載しています。昭和45年～昭和55年編と昭和56年～平成3年編もあります。



愛知県で起きた主な地震

※書名の後の()内は分類番号 B=書庫

愛知県内にも多数の活断層が分布しており、過去に地震による大きな被害を受けています。

(※地震のデータや被害者数などは『理科年表』による)

濃尾地震

明治24(1891)年10月28日発生 震源:岐阜県本巣市 死者7,273名

マグニチュードは8.0と推定され、日本で起こった内陸型の地震としては最大のもので、愛知・岐阜両県に特に大きな被害をもたらしました。上下差6メートルにもなる根尾谷断層は、地震の規模の大きさを象徴するものとして有名です。



根尾谷断層(『濃尾地震と根尾谷断層帯』より)

- 『明治24年濃尾大震災写真帖』(A453)【3F】
- 『濃尾震災 明治24年内陸最大の地震』(369.31)【4F】

東南海地震 ・三河地震

東南海地震

昭和19(1944)年12月7日発生 震源:熊野灘 死者・行方不明1,223名
三河地震

昭和20(1945)年1月13日発生 震源:三河湾 死者2,306名

戦時下に相次いで起こったこの2つの地震は、愛知県に甚大な被害をもたらしましたが、当時の情報統制のため、被害の詳細には不明な点が多く残されています。現在も関係者により被害記録の掘り起こしの努力が続けられています。

- 『恐怖のM(マグニチュード)8』(A453/453.21)【3F/4F】
- 『戦時報道管制下隠された大地震・津波』(B453.21)【書庫】
- 『三河地震60年目の真実』(A453/369.31)【3F/4F】



『三河地震60年目の真実』木股文昭[ほか]/著 中日新聞社(2005)

将来の災害を知る

■東海地震とは?

駿河湾海底を震源域として、近い将来マグニチュード8.0程度の大規模な地震が起こると予想されています。これが「東海地震」です。東海地震が発生した場合、愛知県では震度6強か6弱程度、また太平洋沿岸の広い地域に津波の来襲が予想されています。

●『東海地震がわかる本』(369.31)【4F】

東海地震についてそのメカニズムや予知など、様々な面から解説しています。名古屋大学災害対策室編著。